

「生きる力」を農山漁村の体験から学ぶカリキュラムを取り入れよう!



学校教育で子ども達に農山漁村体験を!

～子ども達が農山漁村で生き生きと活動するためには何が必要か?～



食の大切さを子ども達に伝えることで、地域を活性化させよう!

学校の先生へ

農山漁村体験学習に出かけよう！ 子ども達がこんなに変わります

子どもたちへの効果

●農山漁村の生活や文化、産業などへの興味・関心、学習意欲が向上します

- 異なる風土や自然、人々の生活、伝承文化、農林水産業などに直接触れて、農山漁村に対して親しみがもてる

●体験を通じて問題発見能力や問題解決能力が育まれます

- 調べ学習や農林水産業の作業を通して、自ら進んで学習したり問題解決を試みるなど、実践的な学習方法が身につく

●豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力が高まります

- 農山漁村の人々との交流やふれあいによって、互いを尊重する人間関係のあり方を学ぶ機会に
- 作業の達成感を味わい、勤労の尊さを学べる



学校全体への効果

●農山漁村の多様な教育資源を学校での教育活動に活用できます

- 「総合的な学習の時間」や各教科の学習指導とも連携

●農山漁村体験を核とした特色ある学校づくりに役立ちます

- 体験活動の充実により、魅力ある生き生きとした学校に

●多様な人々との連携・協力により、開かれた学校が実現します

- 家庭や地域社会、行政とも連携し、社会全体で子どもを育てる環境・ネットワークづくり



農山漁村の皆さんへ

農山漁村体験学習を受け入れよう！ 地域がこんなに変わります

人の活性化につながる

●体験活動を楽しむ子どもに刺激を受け、農林水産業の担い手としての自信と元気が得られます

- 農業体験の受け入れや稲作指導は、農業本来の喜びやものづくりの感動を再認識するよい機会

●受け入れ家族のなかでコミュニケーションが増え、日常生活に活気を与えてくれます

- 宿泊客を受け入れることによって、家族それぞれに役割分担ができるなど話題も豊富に

●地域の人材発掘にもつながっています

- 物語の語り部、そば打ち名人、わらじづくり名人など、地域住民の知恵や技術を発揮



地域活性化につながる

●地域に賑わいができます

- 少子化の進んだ地域にも子ども達の楽しげな声が響き、いっそう賑やかに

●地域資源を見直す機会です

- 体験活動のメニューづくりの過程で、子ども達に伝えたい、自慢の郷土食や自然環境等を再発見

●経済的な効果もあります

- 消費者（子ども達とその家族）と顔の見えるつきあいができ、農産物の販売方法にも好影響
- 宿泊客が増える民宿、体験活動の指導料という副収入を得る農家も

●農山漁村の知名度があがります

- 遠方の地域の住民にも農山漁村の名前を知ってもらえるPRに



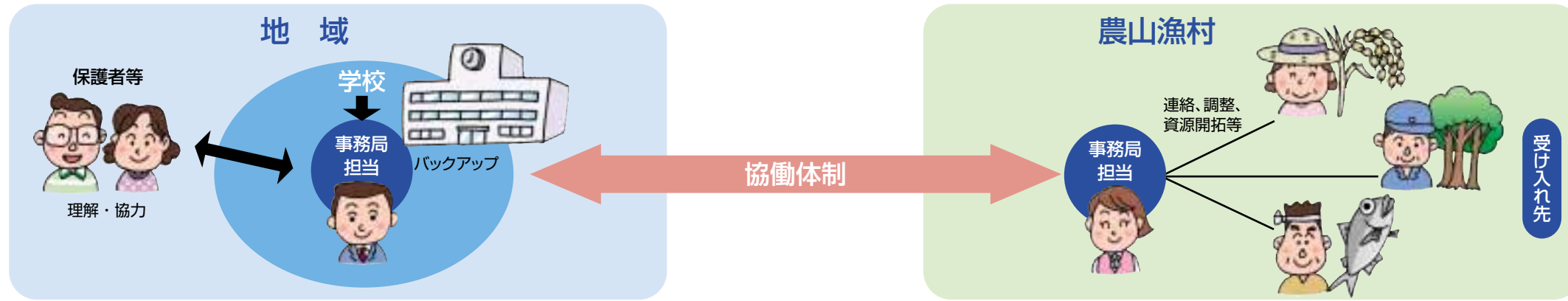
このほかにも、受け入れ側の地元の子とも都市の子どもの交流を行うことによって、次のような効果も見られます。

- 地元の子ども達にも農林水産業を伝えることができます
- 都市の子ども達との交流を通じて地元の子ども達に主体性が出てきます

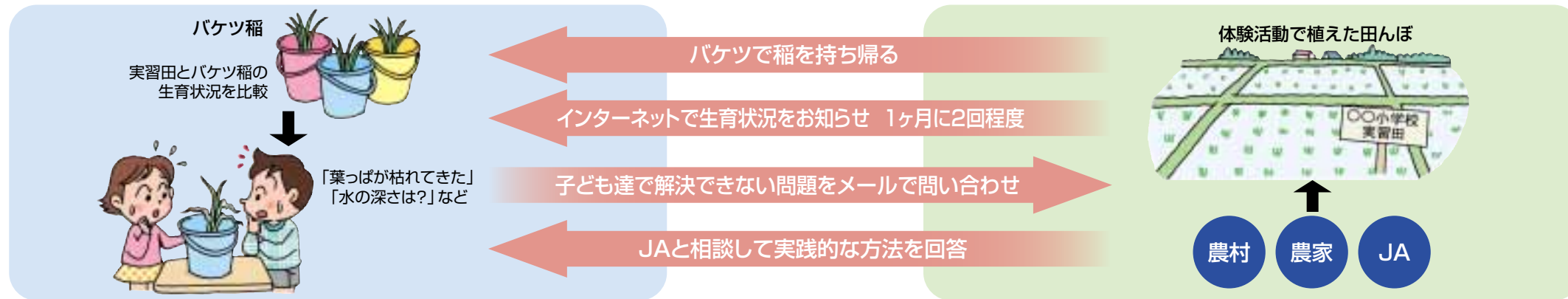
農山漁村と学校の双方において

地域住民、NPO等民間団体、ボランティア、関連機関、行政等の相互理解と連携体制

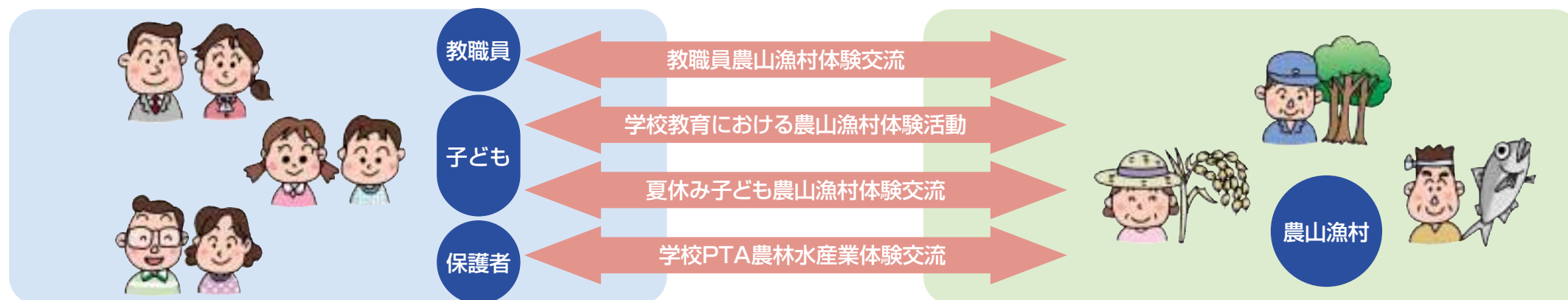
地域のバックアップを受けながら、担当者同士の協働によって理解を深めながら進めます。



農山漁村での滞在期間後も協力しながら、教育効果を高め、互いの交流を深めます。



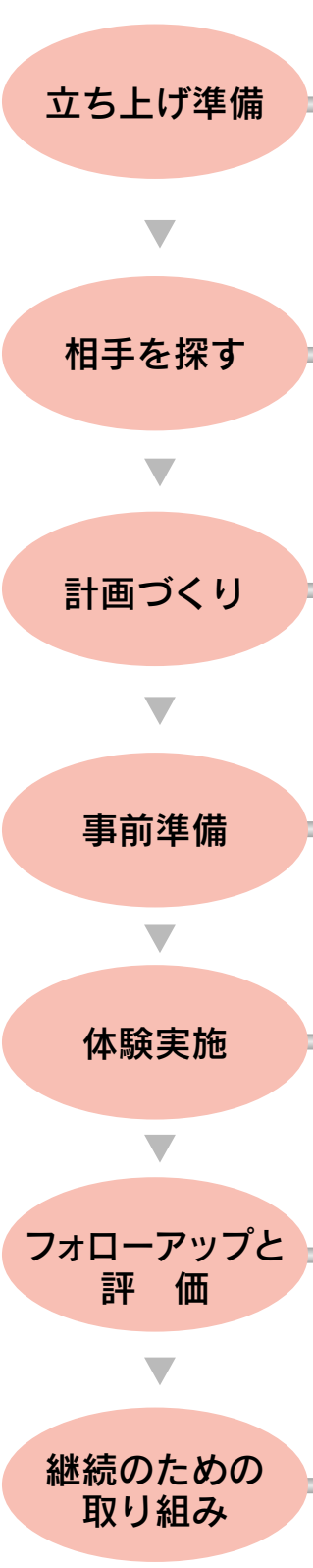
子ども達の農山漁村体験から、相互理解を深めるための広範囲な交流にも発展できます。



学校教育を出発点とした都市と農山漁村の交流を促進

あなたの学校も農山漁村に行こう！

フロー



Q & A

- Q** 農山漁村体験を学校教育に取り入れるにあたって、何を準備しておけばいいですか？

A 体験のねらいと内容を明確にしましょう
学校内での体制を整えましょう
保護者等の理解を得ておきましょう
- Q** 農山漁村に私たちの学校を受け入れてもらうためには、どうしたらよいですか？

A 様々な情報を活用しましょう
農山漁村と協働してすすめましょう
- Q** 体験活動先が決まりました。具体的な計画づくりはどう進めればよいですか？

A 教育効果を高めるプログラムをつくりましょう
リスクに対応できる体制をつくっておきましょう
- Q** 体験活動日が迫ってきました。最終調整として必要なことは何ですか？

A 体験活動の動機付けをしっかりとやりましょう
農山漁村を往訪し現地体制を確認をしましょう
- Q** いよいよ体験、注意すべきことは？

A 当日の連絡体制を構築しておきましょう
農山漁村の生活や文化を尊重しましょう
- Q** 体験活動が終わったあとの取り組みとして、何をすればいいのでしょうか？

A 事後学習を行い、学習を深めましょう
活動をふりかえり、評価をしましょう
- Q** これからも農山漁村体験をぜひ続けていきたいのですが、どうすればいいですか？

A 農山漁村との相互理解をすすめましょう

ポイント

- 農山漁村体験を通じて、どのような学習成果を得たいのかを明確におきましょう。
- 学校全体で取り組んでいく体制を整え、教職員間での意識を高めて、窓口や農山漁村体験の実実施計画を立てて行く際の中核を担う主な担当者を明確にしましょう。
- 時期や費用、活動の内容など、保護者や受け入れ側の担当者と十分に話し合しましょう。
- 行政や旅行会社への問い合わせやインターネット検索、他校で取り組まれている先進事例の視察などを行い、学校側の体験のねらいにふさわしいプログラムが用意できそうかを検討しましょう。
- 必要に応じて受け入れ側で実施しているプログラムを教育目標の達成に向けて改善してもらったり、新たなプログラムを開発したりするなど、学校側と農山漁村側とで協働しながら進めましょう。
- 傷害保険の加入、保護者との連絡体制、現地の引率教員間の連絡体制、地域の医療機関との協力・輸送体制など、農山漁村側との調整が必要な事項を確認しておきましょう。
- 農山漁村の地域特性や農林水産業に関する理解を事前学習によりしっかり行えば、子ども達が実際の体験への意欲を持ち、教育的効果を高めることができます。この事前学習の結果を受け入れ農家に伝え、農山漁村側の準備にも役立ててもらいましょう。
- 体験の当日は、関係者間の連絡体制をしっかりと構築しておくことが重要です。
- 受け入れ側の指導者と協力しながら、子どもと一緒に体験活動に参加するのもよいでしょう。
- 体験活動後に、子ども一人ひとりが体験活動を自分のなかで深めるため、事後学習の時間を設けましょう。農山漁村側にも協力してもらうことにより、さらに学習の効果があがります。
- 担当者や引率教員を中心に、成功点や改善点などについて体験活動を振り返り、次年度の体験活動に役立てましょう。
- 体験活動の受け入れの実績をひとつずつ積み重ねるに加え、農山漁村側とのさらなる相互理解を深めるようにしましょう。評価の結果を農山漁村側にも伝え、共有しておくことも重要です。

F中学校の取り組み事例

学校から一般農家での農業体験を行う修学旅行を実施すると保護者に説明する際に、受け入れ先の村が、地域ぐるみの取り組み体制を敷いて受け入れてくれること、他校の受け入れ実績があることを丁寧に説明することで、保護者の理解を得ることができました。



G小学校の取り組み事例

農山漁村体験活動を導入するにあたって、これまで実施していた林間学校よりも移動時間が長くなりましたが、それに値する学習材があることを説得して関係者の理解を得ていきました。

H中学校の取り組み事例

これまで宿泊していたI市は、人里離れた場所に宿泊施設があるため現地の人々との交流が難しい状況にありました。教職員で他の候補地を見てまわり情報収集した結果、J村であれば希望に沿った農山漁村体験が可能になるとわかり、体験活動先を変更することにしました。

K中学校の取り組み事例

都会からUターンした人に、農家になろうと思ったきっかけや苦労話、人生に対する考え方などの話を聞く機会を設けてもらいました。農作業体験だけでなく、学習に深みを出すことができました。



L小学校の取り組み事例

L小学校では、個別対応が必要な子どもの状況を事前に農山漁村側に知らせておき、受け入れ体制づくりを依頼するとともに、その対処方法の確認をしています。

M小学校の取り組み事例

事前学習の一環として、子どもに写真つきの自己紹介の資料やビデオレターを作成させ、受け入れ農家に事前に送付することで、実際に農家に訪問したときにも短時間で打ち解けることができました。

O小学校の取り組み事例

お礼の手紙や農山漁村体験の感想文を書いて、お世話になった農山漁村の関係者に送っています。



P中学校の取り組み事例

農林水産業体験型の修学旅行を立ち上げた当時の教員が少なくなったことから、体験活動の単調化を防止し本来の主旨や意図を新しい教員に知ってもらうべく、開始当初の様子を知っている先生に当時のいきさつや思い、苦労話を語ってもらい、それを素材に校内研修を行っています。

あなたの町に、村に、学校を呼ぼう！

フロー

立ち上げ準備

相手を探す

計画づくり

事前準備

体験実施

フォローアップと
評価

継続のための
取り組み

Q & A

Q 学校を受け入れるにあたって、何を準備しておけばいいですか？

A 受け入れ目的を明確化しておきましょう
学校教育に資する体験プログラムをつくりましょう
受け入れるための体制を整えましょう

Q 私たちの町や村にきてくれる学校はどのように探したらよいですか？

A 様々な情報を活用しましょう
学校と協働できる体制をつくりましょう

Q 町や村にくる学校が決まりました。具体的な計画づくりはどう進めればよいですか？

A 体験プログラムをつくりましょう
リスクに対応できるようにしておきましょう

Q 学校がやってくる日が迫ってきました。最終調整として必要なことは何ですか？

A 受け入れ農家や体験場所等を準備しましょう
受け入れ側の意識を統一しておきましょう

Q いよいよ体験、注意すべきことは？

A 積極的に体験活動を主導しましょう

Q 体験活動が終わったあとは、何をすればいいのでしょうか？

A 学校での事後学習に協力しましょう
活動を振り返り、評価をしましょう

Q これからも学校の体験活動をぜひ受け入れていきたいのですが、どうすればいいですか？

A 勉強会等を行いノウハウを高めましょう

ポイント

- なぜ、学校を受け入れるのか、どんなメリットを目指すのかを話し合いましょう。農林水産業従事者や地域住民など関係者間で目的を共有し理解を得ておきましょう。
- 地域の資源を活用して提供できる体験プログラムを検討しましょう。学校側の教育課程などにも配慮しながら、農林水産業の作業体験、自然体験、生活体験に沿った内容を工夫します。
- 学校側からの要望等に柔軟に対応したり、連絡調整を迅速に行ったりすることができるよう、農山漁村側の窓口をつくりましょう。広報・マーケティング、体験プログラムの開発、受け入れ先農家の確保と人数配分、料金等の徴収・管理、リスク対応などの役割を担います。

- パンフレットやホームページを作成するなど、学校側に体験学習の受け入れを行っているというPRを広く行いましょう。行政や旅行会社等とも連携した働きかけが効果的です。
- 相手先候補の学校が決まったら、コミュニケーションを密にし、互いの理解を深める情報交換を進めましょう。農山漁村側の思いを伝えるとともに、学校側の意向も把握しながら、双方にとってより良い体験活動を目指していく姿勢が重要です。

- 教育効果を高めたいという学校側の教育目標を理解し、新たなプログラムを開発したり、既存のプログラムを改善していきましょう。体験料や実費など費用負担のあり方についても合意しておく必要があります。雨天時の対応についても予め打ち合わせておきましょう。
- 損害賠償保険の加入や地元の医療機関との協力・輸送体制、危険動植物に関する情報収集、自然災害時の避難場所の確保・誘導体制など、滞在中の不測の事態に備えておくことも重要です。

- 受け入れる子どもの人数に応じて、農家や体験用の田畑を確保しておきましょう。受け入れ農家の意欲や力量に配慮し、負担が偏らないようにすることが重要です。
- すべての子ども達が教育目的に基づいた共通の体験活動を行えるよう、基本的な対応について、再度、意識の統一を図っておきましょう。

- 実際の体験活動の実施場面では、子ども達と積極的に関わるとともに、農山漁村や農林水産業のようすを伝えていきましょう。
- 農山漁村での滞在期間中だけでなく、学校に戻ったあとの教育活動にも協力しましょう。子ども達が体験活動で得たものを、より深めることができます。
- 農林水産業従事者や地域住民など関係者間で、成功点や改善点などについて体験活動を振り返り、次年度の体験プログラムや実施方法に役立てましょう。

- 体験活動の受け入れの実績を積み重ねることに加え、勉強会などで他地域の事例から学ぶ機会を設けるなど、向上心をもって受け入れ体制のノウハウを高めていきましょう。こうした取り組みが単調化を防止し、受け入れを長期的に継続することにつながります。

A町の取り組み事例

A町では有志の農家が集まって特定非営利活動法人（NPO法人）を立ち上げ、事務局長が学校と農家との間のコーディネーター役になり、学校の体験活動を受け入れています。



B町の取り組み事例

B町では、通年で開発した活動プログラムを単品メニューとして提示するだけでなく、2泊3日コース等のパッケージとして提案することによって、学校側が検討しやすいように工夫しています。



C町の取り組み事例

C町の概要を紹介した冊子を作成し、蛇や害虫などの危険な動植物について、その外見や特徴、予防方法、発生する症状や手当ての方法等について記載し、子どもに配布しています。



D村の取り組み事例

D村では受け入れ農家が事前に集まって「子どもをお客さん扱いしないで自分の子どものように接すること」「農家の実態をそのまま伝えること」などを確認しあっています。



E村の取り組み事例

E村では受け入れた中学校の校長先生を講師に招待し、学校教育における体験活動の成果を講演してもらうことで、村と学校の交流を深めています。

本パンフレットのねらい

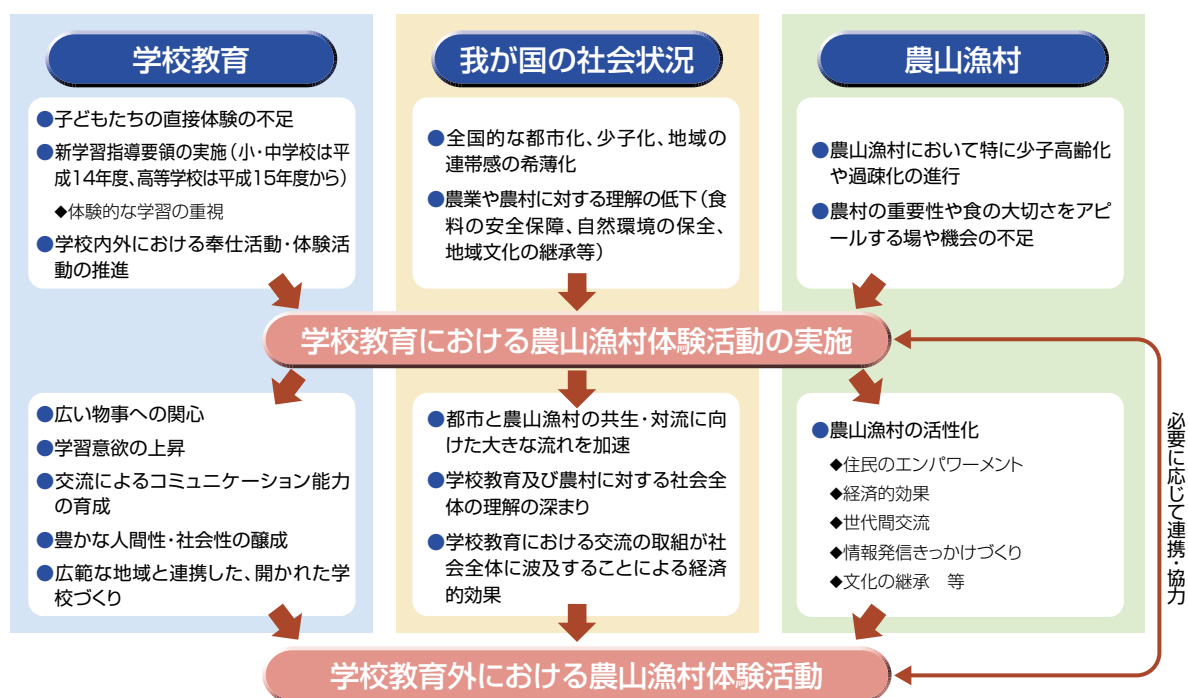
本パンフレットは、活動の立ち上げにあたって留意すべき点や先進事例の取り組みを紹介することで、教育活動のなかで農山漁村体験に取り組みたいと考えている学校等の関係者の方々や、これから体験活動を受け入れようと考えている農山漁村に参考にしていただくために作成したものです。

●●●●●学校教育において農山漁村体験活動を実施する意義●●●●●

わが国の農山漁村においては、少子・高齢化、過疎化、後継者不足等の様々な課題が急速に顕在化しており、活力の低下や農山漁村の諸資源の維持・保全が危惧される状況もみられます。農林水産業の活性化、農山漁村の振興を図るためには、地域住民はもとより多様な主体の参画により様々な知恵の結集が必要とされています。

一方で、子ども達の農林水産業・農山漁村体験は、個性や創造性の発揮など豊かなこころを育み、人格形成に大きな効果を及ぼす取り組みとして期待されています。農山漁村の持つ教育的役割を積極的に活用することは、子ども達の農林水産業・農山漁村観の形成、自然とのつながりの再認識、都市と農山漁村の共生・対流の必要性を体験的に理解するという意味でも重要です。

こうしたことを背景に、都市と農山漁村の住民双方が参加して、農山漁村の自然環境を維持し、農山漁村が持つ教育的機能を子ども達が十分に享受できるような、学校教育における農山漁村体験が全国各地で取り組まれつつあります。



問い合わせ先

- 農林水産省 農村振興局 農村政策課
 - 農林水産省 農村振興局 地域振興課
 - 農林水産省 経営局 女性・就業課
- TEL 03-3502-8111 <http://www.maff.go.jp/>
- 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課
- TEL 03-5253-4111 <http://www.mext.go.jp/>